

成長期スポーツ傷害		講義	講師 佐藤 康宏	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351301	

1. 授業のねらい・概要

発育発達期の子ども達のスポーツに関与する指導者は、「成長期」について十分な注意が必要であると考えられる。なぜなら、成長のスピードや時期には個人差があるということを十分に理解しなければならない。

本講義では、発育発達期の特徴を把握、成長途上の著しい身体変化に起因するスポーツ傷害の原因や、症状を正しく評価し、スポーツ指導者として留意すべき点、対処法について理解していく。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが随時、過去の傷害症例や論文の先行研究から具体的例を取り上げて、パワーポイントで説明を行う。また、理解の定着を図るため、講義の途中でレポートを作成する。

3. 授業計画

1. ガイダンス テキストの内容と講義形式について	8. 成長期スポーツ傷害—IV 股関節部に発生する成長期スポーツ傷害
2. 「スポーツとは」「発育と成長とは」	9. 成長期スポーツ傷害—V 膝部に発生する成長期スポーツ傷害
3. 発育発達期の身体的特徴—I 身長・骨格・体重の発育	10. 成長期スポーツ傷害—VI 下腿部に発生する成長期スポーツ傷害
4. 発育発達期の身体的特徴—II スキヤモンの発育曲線とは 神経系の発達 神経・筋コントロール能力の発達	11. 成長期スポーツ傷害—VII 足部に発生する成長期スポーツ傷害
5. 成長期スポーツ傷害—I 肩部に発生する成長期スポーツ傷害	12. 5, 6 歳から 8 歳ごろにかけて (プレ・ゴールデンエイジ)
6. 成長期スポーツ傷害—II 肘部に発生する成長期スポーツ傷害	13. 9 歳から 12 歳ごろにかけて (ゴールデンエイジ)
7. 成長期スポーツ傷害—III 腰部に発生する成長期スポーツ傷害	14. 中学校期(13 歳ごろ)以降におけるトレーニング 性差に応じたトレーニング
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の授業内容を復習しておく。復習には前回は自分が作成したレポートを参考にする。なお、これらの準備学習には、1 時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、重要箇所について解説を行う。訂正箇所があった場合は後日、改めて提出日を設定する。

6. 授業における学修の到達目標

発育発達期の特徴を把握、成長途上の著しい身体変化に起因するスポーツ傷害の原因や症状を正しく評価し、スポーツ指導者として留意すべき点、予防法、対処法について理解する。

また、講義の一部によって、柔道整復師国家試験に出題させる範囲（例として骨端症や四肢軟部組織損傷）も含まれるので、その部分に関しても十分に理解する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（40%）およびレポート審査（60%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト，参考文献，資料等は必要に応じて配布する。

9. 受講上の留意事項

受講の要件としては，各スポーツの競技特性について興味や関心があることが望ましい。成長期に限らずプロスポーツなどのケガや事故について，ニュースやインターネットなどで知ることが重要である。

また，これまでの自分の成長過程で起こったケガについて，思い返すことも重要である。講義ではなるべく理解できるように説明するが，疑問や不明な点については，遠慮なく質問してもらいたい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は柔道整復師免許を有し，整形外科医院，接骨院に勤務した実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。